

～知っていますか？～

オトになったイキモノたち

ゼツメツキグシュノオト

— いきもののオト、
きこえますか？



子供から大人まで
楽しみながら学べる

絶滅が心配な生き物たち

チーターやラッコ、ニホンリスなどに

思いをよせる

お話とピアノ演奏の
コンサートです

ピアノ
内藤 晃

作曲家・ナビゲーター
春畑セロリ

心をつなぐアートの世界
子供たちの作品展示

生物学者
古賀 庸憲

とき

11月24日(土)

14:00開演(13:30開場)

ところ

メディアアートホール

〒641-0051 和歌山市西高松一丁目7番38号

入場料

[一般] 前売 ¥1,800 (当日 ¥2,000)

[小学生以下] 前売 ¥800 (当日 ¥1,000)

[親子券] (一般1枚+小学生以下1枚)

¥2,500 前売のみ

申し込み・お問い合わせ

<TEL> 080-3109-0553 (ル・リアン事務局)

<TEL> 073-488-6308 (ピノテラス)



主催 ル・リアン



ゼツメツキグシュノオトとは

絶滅が心配な生き物たちに思いをよせる、
絵と音楽のコラボレーション。

音の台所(茂木淳子)さんが生き物の絵を描き、つぶやきを添え、
そのイメージを作曲家の春畑セロリさんが曲にしました。

音楽之友社のWeb連載として、月1曲のペースで生まれた愛らしい曲たち。
18の生き物たちに寄せた、18曲の小さなピアノ作品です。

リュウキュウコノハズク、リュウキュウアカショウビン、エソナキウサギ、ラッコ、
アオウミガメ、アマミノクロウサギ、イリオモテヤマネコ、ヤンバルクイナ、ナゴラン、
リュウキュウウラボシシジミ、サンゴ礁、ライチョウ、ニホンリス、ホッキョクグマ、
クマゲラ、ニホンモモンガ、チーター、カカポ
彼らはみな、生存個体が稀少となり絶滅が危ぶまれている生き物です。
でも、彼らは彼らなりに、いつも通りの日々を生き、
一生懸命に、チャーミングに、たくましく毎日を過ごしています。



この作品を聴いて、見て、演奏することで、
「ゼツメツキグシュ」たちに少しでも心をよせ、
地球環境や生命について思いをはせるきっかけになればと、願っています。

プログラム

開場 13:30 開演 14:00

「ゼツメツキグシュノオト」
ピアノ演奏 内藤 晃

和歌山の絶滅危惧種
～私たちにできること～
お話 古賀 庸憲

再び「ゼツメツキグシュノオト」

作曲家：春畑セロリ (はるはた せろり)

作曲家。東京藝術大学卒。鎌倉生まれ、横浜育ち。舞台、映像、イベント、出版のための音楽制作
作編曲、演奏、執筆、音楽プロデュースなどで活躍中。さすらいのお気楽者。主な著作に「オヤツ探検隊」
「空をさわりたい」「できるかなひけるかなシリーズ(全7冊)」「連弾パーティー・シリーズ(全5冊)」
「きまぐれんだんシリーズ(全6冊)」(以上、音楽之友社)などがある。

<http://www.trigo.co.jp/celeri/>



ピアノ演奏：内藤 晃 (ないとう あきら)

ピアニスト・指揮者・作編曲家。東京外国語大学卒業。弾き振りを含む多彩な演奏活動のほか、「もっと深い
音楽体験」を共有すべく、ユニークな発想でレクチャーや執筆を行う。主宰ユニット「おんがくしつトリオ」では、
教育楽器によるエキサイティングなアレンジが話題となり、全国的に公演を行う。著作、校訂楽譜
録音作品多数。

www.akira-naito.com

生物学者：古賀庸憲 (こが つねのり)

和歌山大学教育学部教授。専門は動物生態学。これまで干潟のカニのオス間競争や配偶者を主に研究。
最近では干潟の貝やヤドカリにも興味を持つ。和歌浦と有田川で一般市民対象に行っている干潟観察会は
親子連れで賑わう。興味のある人はご参加ください。

<http://wakarid.center.wakayama-u.ac.jp>



ル・リアン Le lien



音楽を通して出逢った仲間との「繋がり」や「絆」を大切に、これからは素敵な出逢いがありますように、とつけた名前です。
《音楽の力》をテーマに講座や勉強会をしています。興味のある方はお気軽にお問い合わせください。



メディアアートホール 和歌山県立図書館 2階

駐車場 77台(うち3台 身体障害者用)
駐輪場：有

公共交通機関

JR和歌山駅・南海和歌山市駅から県庁前経由和歌浦方面行き「高松」下車徒歩3分

